

なぜ生命保険なのか？

社長たるもの、「生きて良し、死んで良し」の状態を自分自身でつくり上げるべきですが、まずは「死んで良し」の対策が大優先です。



死んで良しとは？

社長の突然の死亡に備えるものです。もともと社長さんには、重責がついて回ります。とくに中小企業の場合は、経営が安定しているような会社でも、「社長の突然の死亡」によって舵取りを失うと、借入金返済、運転資金の確保、従業員の雇用、納税資金などさまざまな問題が生じます。結局のところ、こうした問題を解決できるのは、とりあえずお金です。

生きて良しとは？

いくらオーナー社長でも、100歳まで現役というわけにはいきません。ハッピーリタイアの時期を考え、退職金という形で頑張ってきた自分への素敵なプレゼントを用意する必要があります。その退職金の財源を準備する方法として、よく法人契約による生命保険が活用されています。



[生命保険の特長]

1. 費用対効果が明確
2. 現金で支給
3. 税の優遇

税の優遇については、会社の資金で損金になる生命保険に加入したり、全額損金なのに途中解約時に戻りのある定期保険が認められたり、養老保険なのに一定の条件のもとに半分損金に算入できたりと、けっこう有利な商品があります。

[社長が生命保険に入る心構え]

1. 社長は自分自身のために。
2. 社長は家族のために。
3. 社長は従業員とその家族のために。
4. 社長は取引先のために。
5. 社長は金融機関のために。
6. 社長は社会のために。

社長さんは、以上のような覚悟をもって、万が一に備える生命保険に加入していますか？もし、そうでなかったり、このことがよく分からないときは、生命保険に詳しい税理士や法人契約に詳しい生保レディに、今すぐ電話して相談してください。